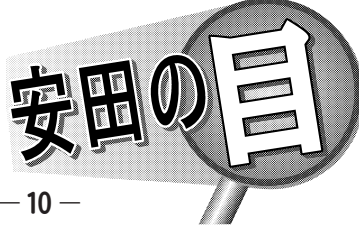




ボルテックス 安田 憲治

2023年の日本経済
は、新型コロナへの対応



— 10 —

について、マスク着用の考え方の見直し、感染症の5類への移行と、政府が家計、企業に対して行動制限を行う法的根拠を失い、ウィズコロナからアフターコロナの環境となった。

世界経済はインフレと金融引き締めが主要テーマで、これらの影響を受け日本では、生鮮野菜や家庭用消耗品などの生活必需品の価格が上昇した。名目GDPは人口が日本の約3分の2であるドイツと順位が入れ替わり、世界第4位となりそう

◇やすだ・けんじ 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了。大手総合アミューズメント企業で、データサイエンスの経営戦略への反映に取り組む。現在、株式会社ボルテックスにて、社内データコンサルティングに携わる。多摩大学社会的投資研究所研究員。

2023年を振り返る、日本経済と生成AIの交差点

ントロール（長短金利操作）の撤廃やマイナス金利政策の解除は、貸出利率や金融市場の動向を変え、企業や個人の資金調達コストに影響を与えることが予想される。

また、人々の行動に影響を与えた要素に「生成AI」「チャットGPT」が2023ユーキャン新語・流行語大賞のノミネート語30に選ばれた。近年のAIの進化は、人間のプロ囲碁棋士を破ったアルファ碁や昨年10月30日には「オセロで双方が最善手を打った場合、最終局面は引き分けになる」ことが『オセロが解決された』というタイトルの論文で発表さ

れるなど話題に事欠なかった。

生成AIの普及はこれまでにない速さで人々の生活を変え、新時代の幕開けを予感させた。生成AIの普及にともない、その効果的な活用に必要な専門的スキルを持つ人材の育成やフェイクニュースへの対応など、取り組むべき倫理的・法制的・社会的課題が明確になってきた。マッキンゼー社の調査では、生成AIは年間で2・6兆ドルから4・4兆ドルの価値を生み出す可能性が示唆され、今後の影響の広がりから目が離せない。私は新年の抱負に、生成AIとの向き合い方を織り込んでみたいと思う。